

関西学院大学大学院 博士学位論文 審査基準等

研究科名	内容
神学研究科	<p>以下の基準に従って審査する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 問題意識が明瞭で、論文の課題設定が適切であるか。 主題に即した先行研究が十分に涉猟されているか。 明示された方法論によって一貫した論述がなされているか。 主題に関連する文献・資料の分析・解釈が適切であるか。 論文構成・論理展開に説得性があり、文章表現が適切であるか。 引用等が適切であり、学術論文としての体裁が整っているか。 従来の研究にない独自の見解を提示するような独創性を備えているか。 当該分野へ貢献できるものであるか。 <p>なお、論文執筆の資質向上を目的として、神学研究会において報告会を設ける。</p>
文学研究科	<p>(1) 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。</p> <p>(2) 情報収集の度合い：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータや資料の収集が適切に行われていること。</p> <p>(3) 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が、データ、資料、作品、例文などの処理・分析・解釈の仕方も含めて、適切かつ主体的に行われていること。先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有していること。</p> <p>(4) 論旨の妥当性：全体の構成も含めて論旨の進め方が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されていること。</p> <p>(5) 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目次・章立て・引用・注・図版等に関しての体裁が整っていること。</p> <p>(6) 上記の基準を満たした上で、当該学問分野における研究を発展させるに足る知見（学術的価値）が見出せること。また、その点に基づいて申請者が近い将来、自立した研究者として当該分野の中で活躍していく能力および学識が認められること。</p> <p>※ 専攻領域あるいは論文テーマの特徴から判断して、さらに以下の項目も「博士論文」の審査基準として付加することがある。</p> <p>倫理的配慮：研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされていること。</p> <p>また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守していること。</p>
社会学研究科	<p>博士学位論文の審査にあたって、下記の諸点を考慮しながら評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> テーマの明確性 先行研究との関連性 論文要旨の一貫性 論文構成の体系性 実証的な手続きの妥当性 論理展開の縦密性 研究内容の新規性 学問的な独創性 社会問題解決への実践的志向性 研究の将来性
法学研究科	<p>(1) 博士論文審査基準</p> <p>①研究者用審査基準 研究者として期待される独創的な研究成果を含むと評価できる論文。</p> <p>②高度専門職業人用審査基準 研究者以外の職業に就いて独立した研究を行うことができる程度の高度な能力を有していると評価できる論文。実務経験から得られた高度な知見を学問的な水準において表現した論文も対象となる。</p> <p>③又は②のいずれの博士論文の提出を希望するかにつき、入学試験出願時に自己申告させ（合否判定において考慮する）、原則として希望変更を認めない。高度専門職業人用審査基準の適用者は、原則として社会人入学者とする。</p> <p>(2) 博士論文評価項目</p> <p>審査においては、下記の評価項目を総合評価して、所定の審査基準を充たすかどうかを判断する。</p> <p>①研究者用審査における評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマの独創性、問題意識の明確さ、方法論的な一貫性、国内外の先行研究との十分な関連づけ、研究成果の学術的貢献度、論文構成・論理展開・文章表現の妥当性、裁判例その他の資料分析の適切性、引用文献の適切性等 研究課題に関する研究分野全般についての専門知識が研究者として十分なものか。 <p>②高度専門職業人用審査における評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマの新規性、有用性、問題意識の明確さ、方法論的な一貫性、実務的知見や先行研究との十分な関連づけ、研究成果の学術的貢献度、論文構成・論理展開・文章表現の妥当性、裁判例その他の資料分析の適切性、引用文献の適切性等 研究課題についての研究の基礎となる専門知識が専門家として十分なものか。
経済学研究科	<p>博士論文については、以下の①～⑥に示す、すべての要素を満たしていることを基準に評価をおこなう。</p> <p>①学術的、社会的意義と貢献を意識し、明確な問題意識のもとにテーマ設定がなされていること。</p> <p>②専門分野での国内外の最新の知見を広範に摂取したものであること。</p> <p>③独創性に富む論文であること。</p> <p>④高度な分析手法を用いたものであること。</p> <p>⑤緻密な論理構成により、明確な結論を示していること。</p> <p>⑥国内外の学会や社会への知的貢献が大きいと認められること。</p>
商学研究科	<p>博士論文の審査にあたって、次の点を考慮し、特に6と7を重視しながら評価を行う。なお、各分野における研究アプローチや特殊性についても考慮する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 問題意識が明確で、課題設定が適切であること。 先行研究が適切に検討・吟味されていること。 事実調査・文献資料などの探索が十分にできていること。 分析の切り口が明確で、論理展開が一貫していること。 調査分析の内容の記述や展開が説得的であること。 当該分野の学問研究に貢献していること。 分析内容にオリジナリティがあること。 引用等が適切になされ、学術論文としての体裁が整っていること。

	<p>(数理科学専攻)</p> <p>博士論文は申請者が主体的に取り組んだ独創性の高い研究成果で、数理科学領域における高度な専門知識及び研究能力を示すものでなければならない。博士論文は以下の項目に基づき審査される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究課題の背景と意義が十分に記されている。 ・研究結果が新しい数理科学的知見を含んだ意義深いものである。 ・適切な文献が引用されている。 ・研究内容が、査読制度のある学術誌に論文として1報以上掲載済み（あるいは掲載が決定されている）か、またはそれと同等の内容であると認められる。
	<p>(物理学専攻)</p> <p>博士論文は申請者が主体的に取り組んだ独創性の高い研究成果で、査読制度のある国際学術誌への掲載など外部で評価された内容を有していなければならない。博士論文は以下の項目に基づき審査される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究課題の背景と意義が十分に記述されている。 ・論理的思考のもとに研究計画が熟考され、研究の方法が具体的に記述されている。 ・研究で得られた結果の整理・解析が適切に行われており、それらに対して妥当な物理的解釈がなされている。 ・研究内容の学術的な意義が述べられている。 ・論文、参考文献が適切に引用されている。 ・学会等（国際学会が望ましい）で発表された内容が盛り込まれている。 ・査読制度のある国際学術誌に、論文（1報以上）として掲載（印刷中を含む）された内容を含んでいる。
	<p>(化学専攻)</p> <p>博士論文は、選択した研究テーマについて独自の発想に基づいて研究を遂行し、自らの力で得た学術的新知見を含む内容を有していなければならない。博士論文は以下の項目に基づき審査される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の論文構成が体系的である。 ・研究課題の目的と背景が明確に示されている。 ・研究計画と研究方法が具体的に示されている。 ・研究結果が明確に示され、その解析と考察が適切に行われている。 ・研究の学術的な意義と波及効果が述べられている。 ・先行研究を把握し、関連する論文が適切に引用されている。 ・学会等で発表した研究内容が盛り込まれている。 ・査読制度の確立された学術雑誌に掲載または掲載が決定された原著論文1報以上の研究内容が盛り込まれているか、あるいはこれに準ずる内容が盛り込まれている。
理工学研究科	<p>(先進エネルギー／工学専攻)</p> <p>博士論文は申請者が主体的に取り組んだ独創性の高い研究成果で、査読制度のある国際学術誌への掲載など外部で評価された内容を有していなければならない。博士論文は以下の項目に基づき審査される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究課題の背景と意義が十分に記述されている。 ・論理的思考のもとに研究計画が熟考され、研究の方法が具体的に記述されている。 ・研究で得られた結果の整理・解析が適切に行われており、それらに対して妥当な科学的解釈がなされている。 ・研究内容の学術的な意義が述べられている。 ・論文、参考文献が適切に引用されている。 ・学会等（国際学会が望ましい）で発表された内容が盛り込まれている。 ・査読制度のある国際学術誌に、論文（1報以上）として掲載（印刷中を含む）された内容を含んでいる。
	<p>(情報科学専攻・人間システム工学専攻)</p> <p>博士論文は申請者が主体的に取り組んだ独創性の高い研究成果で、かつ高い独創性を有していなければならない。博士論文は以下の項目に基づき審査される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の背景と意義が、適切に論文を引用しながら述べられている。 ・問題設定と解決方法の選択が適切になされ、結果と考察が根拠に基づいて論理的に記述されていること。 ・博士論文に含まれる研究成果が、学術論文1報および査読付国際会議論文1報、あるいは学術論文2報として掲載されている。論文は印刷中を含む。
	<p>(生命科学専攻)</p> <p>博士論文は申請者が主体的に取り組んだ独創性の高い研究成果で、査読制度のある国際学術誌への掲載など外部で評価された内容を有していなければならない。博士論文は以下の項目に基づき審査される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の背景と意義が、適切に論文を引用しながら述べられている。 ・研究方法が具体的に記述されている。 ・実験結果のデータ整理と解析が論理的になされている。 ・中間審査会で指摘された項目を考慮し、執筆されている。 ・研究成果が学会等（国際学会が望ましい）で発表されている。 ・博士論文に含まれる研究成果が査読制度のある国際学術誌に、論文として1報以上掲載されている（印刷中を含む）。 ・研究の波及効果が述べられている。
	<p>(生命医化学専攻)</p> <p>博士論文は申請者が主体的に取り組んだ独創性の高い研究成果で、査読制度のある国際学術誌への掲載など外部で評価された内容を有していなければならない。博士論文は以下の項目に基づき審査される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の背景と意義が、適切に論文を引用しながら述べられている。 ・研究方法が具体的に記述されている。 ・実験結果のデータ整理と解析が論理的になされている。 ・中間審査会で指摘された項目を考慮し、執筆されている。 ・研究成果が学会等（国際学会が望ましい）で発表されている。 ・博士論文に含まれる研究成果が査読制度のある国際学術誌に、論文として1報以上掲載されている（印刷中を含む）。 ・研究の波及効果が述べられている。
	<p>(環境・応用化学専攻)</p> <p>博士論文は、環境と応用化学分野において申請者が取り組んだ研究の成果で、独創的かつ学術的に新知見が得られた研究内容を有していなければならない。博士論文は以下の項目に基づき審査される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の目的、背景が明確に示されている。 ・研究方法が具体的に示されている。 ・研究によって得られた結果が明確に示され、その解析と考察が適切に行われている。 ・研究内容の独創性と学術的価値が示されている。 ・先行研究を把握し、参考文献として適切に引用されている。 ・査読制度のある学術雑誌に論文として掲載された研究成果が含まれている、あるいはこれに準ずる内容が含まれている。

総合政策研究科	<p>テーマの設定：学術的・社会的意義及び貢献が意識されたテーマ設定が妥当かつ明確になされていること 論理性・構成：論理が明晰に展開され、構成が体系立てられていること 表現・体裁：引用、図、表などの記述が適切に処理されていること 先行研究：先行研究に関する必要かつ十分な整理がなされ、批判的な検討が加えられていること 研究・分析手法：テーマと整合性のある研究・分析手法を採用しており、資料の取扱いや分析結果の解釈が妥当かつ説得的であること 独創性：学問的な独創性を有しており、学界への貢献が果たされていること 志向性：研究を社会で活かすための志向性が示されていること ※ なお、論文に加え、映像、ソフトウェア、建築設計などの作品制作について審査を受ける場合は、テーマ設定の妥当性、作品の独創性、技術力、デザイン力等を別途評価する。</p>
人間福祉研究科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマの明確性 研究テーマが明確で、研究目的にかかる意義や必要性が的確に述べられている。 2. 研究方法の妥当性・厳密性 研究目的に照らして研究の方法が適切である。 資料・データの取り扱いや分析結果の解釈が妥当且つ厳密である。 3. 先行研究との関連性 関連する研究を十分に涉猟し、的確に理解した上で、その到達点が踏まえられている。 4. 論理の一貫性 分析、結果、考察に至る論理展開に整合性、一貫性があり、明確に結論が導き出されている。 5. 独創性 考察・結論において学術的に独創性・重要性があり、社会への貢献が果たされる。
教育学研究科	<ol style="list-style-type: none"> ①研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。 ②情報収集の度合い：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータや資史料の収集が適切に行われていること。 ③研究方法の妥当性：研究の目的を達成するためにとられた方法が、データ、資史料などの処理・分析・解釈の仕方も含めて、適切かつ主体的に行われていること。先行研究に対峙しある発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有していること。 ④論理の一貫性：全体の構成も含めて論理展開に整合性、一貫性があること。 ⑤独創性：当初設定した課題に対応した明確かつ独創的な結論が提示されていること。 ⑥論文作成能力：文章全体が確かに表現力によって支えられており、要旨・目次・章立て・引用・注・図版等に関して学術論文としての体裁が整っていること。 ⑦研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされていること。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守していること（以上①～⑦は修士論文審査基準と共通）。 ⑧上記の基準を満たした上で、当該学問分野における研究を発展させるに足る知見（学術的価値）が見い出せること。また、その点に基づいて申請者が近い将来、自立した研究者として当該分野の中で活躍していく能力および学識が認められること。
国際学研究科	<p>博士論文の審査は、審査委員会により、以下のような評価項目に基づいて総合的に行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> a) テーマは研究科のミッションに照らして適切か。 b) 文章表現、論文の構成、全体のまとまり、などは適切か。 c) 関連分野の先行研究を適切に踏まえているか。 d) 既存研究に新たな事実発見・資料発掘・独自の知見の展開があるか。
言語コミュニケーション文化研究科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 博士学位申請論文は、明確な研究課題に基づいたものであり、研究対象領域におけるその意義や必要性が述べられたものでなければならない。 2. 博士学位申請論文は、当該分野において新たな知見をもたらすような学術的価値を有するものでなければならない。 3. 博士学位申請論文は、高度な独創性を備えたものでなければならない。 4. 博士学位申請論文は、過去の研究成果を十分に検討しつつ、研究課題に照らし合わせた妥当な方法によって得られた資料・データ等、あるいは研究対象とする文献等を適正に分析したものでなければならない。 5. 博士学位申請論文は、上記の分析から得られた結果を的確に考察し、論理的に議論を展開し、結論を導き出したものでなければならない。
経営戦略研究科	<p>(1) 学位申請論文の審査に当たっては、以下を評価項目とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ア. テーマ、研究方法の選択が、先行研究をふまえている。 イ. テーマ、研究方法に従ってデータ・研究資料を的確に収集・処理している。 ウ. データ・研究資料の読みが正確であり、分析・解釈が的確である。 エ. マネジメントの問題解決に寄与する、先端的かつ独創的な内容を有している。 オ. 知見や着眼点および分析の切り口が斬新である。 カ. 論理的に一貫しており、表現力が高く、統一感がある。 <p>(2) 学位申請論文は、レフェリー制度のある学術誌掲載論文2本以上に値する成果を含んでいることを基準とする。</p>